

第三者評価結果

事業所名：小学館アカデミー かみおおおか保育園

A-1 保育内容

A-1-（1） 全体的な計画の作成		第三者評価結果
A-1-（1）-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。		a
<コメント> 全体的な計画は法人が児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針に基づいて作成しています。園では法人が作成した全体的な計画を配付して、職員全員が基礎となる項目、養護、教育、食を営む力のそれぞれに意見を書き加え、年齢ごとに園独自の保育目標とテーマを設けます。保育目標とテーマは年度ごとに決めています。その後、園長がまとめて全体的な計画を完成させます。園の運営時間は7時～20時ですが、朝は7時過ぎから登園が始まり、降園の送迎は17時から18時半までの利用者が7割を占めています。延長保育の利用者は10人程度です。また、この地域は交通の便が良く、商業施設も多い、暮らしやすい街です。園は駅から近く、電車通勤してフルタイムで働く保護者の利便性に寄与しています。全体的な計画は、このような園の保育時間や地域の実態なども考慮して作成されています。なお、毎年、前年度の職員の振り返りを評価し、新年度設定したテーマを基に作成しています。昨年度はコロナ禍の影響で保護者会の開催ができなかったため、面談と日常の交流で得た情報を加味して、今年度の計画を作成しました。		
A-1-（2） 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		第三者評価結果
A-1-（2）-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。		a
<コメント> 保育室は、エアコン、空気清浄機、加湿器を設置して、空調、換気を行い、温度や湿度等の調整をしています。窓の遮光はスクリーンを貼ったり、テープを貼ったりして行うほか、毎日の掃除と消毒は法人の「施設運営の手引き①」にしたがって行っています。昼、午睡後にトイレ汚れを確認し、水回りには特に気を配りながら、衛生チェック表で管理しています。保育所内外の設備は、給食担当がごみ捨てをする際に確認したり、園外は事務職員が清掃したりしています。家具、ドア、玩具、寝具も、衛生管理チェック表に基づいて定期的に消毒しています。保育室内はゴザを敷いたスペース、コーナー遊びのスペース等、成長段階に合わせた環境設定を行い、子どもたちの発達状態に合わせて、室内のレイアウトを随時見直しています。食事の際には4人席の真ん中に衝立を設置し、午睡時には子どもの頭が交互になるようにコット（簡易ベッド）を設置しています。子どもが午睡するコットは、個人が1週間連続で使用し、週末に清拭消毒しています。玩具は大型の玩具殺菌庫を使って、昼食の時間帯に毎日消毒しています。		
A-1-（2）-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		a
<コメント> 子どもたち一人ひとりが安心して気持ちを表現できるように、職員は応答的な触れ合いや言葉がけを行っています。職員、クラス担任、主任、看護師は昼打ち合わせノート、共有ノートの申し送り事項、保育日誌、延長保育日誌で子どもの育ちについて情報共有しています。子どもたちが遊ぶときにも、職員が積極的にかかわります。職員と子どもが一对一になると、その子どもも自分自身の欲求を表現する姿が見られます。必要に応じて、子どもと距離感を持って接したり、落ち着ける環境を作ったりしています。子どもが興奮しているときは、クールダウンするために、廊下を散歩したり、テラスに一緒に行ったりします。子どもが話す内容に共感し、言葉を押し付けずに、その子どもの表現を大切にするようにしています。子どもへの言葉遣いはていねいな言葉を使うようにしていますが、威圧的な言葉遣いを職員がした場合には、園長が個別に指導しています。職員は子ども一人ひとりのペースを大切にしながら、せかず言葉や制止する言葉を使わないようにしています。		
A-1-（2）-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。		a
<コメント> 職員は子ども一人ひとりの違いに配慮しながら、保育をするよう努めています。0歳児は生活リズムが崩れやすいので、体力を保てない子どもは、午前睡にし、子どもの成長に合わせて対応しています。1歳児になると体力がついてくるので、子ども一人ひとりの状態を見ながら遊びを楽しみます。生活の切り替え時には、子どもたちがついて来られないこともあるので、職員を配置するとともに、主任もフォローに入ります。職員はその子どもが納得するまでやりたいことに付き合い、状況に合わせて子どもの動作を援助しています。また、各家庭の生活の状況に合わせ、それぞれの家庭のライフスタイルを考慮しながら支援できるようにしています。日々の活動では、静と動のバランスを大切にしています。計画活動自体も運動や、机上遊び、静かな遊びも含めて時間帯を決めて、体操をしたりトンネルを運動したり、ゆったり運動をしたりした後、昼食を摂るようにします。午後は静かに園庭やテラスなどで遊ぶ、子どもたちが自分で選んだ遊びをする等しています。職員は子どもたちの生活リズムや、在園時間が異なることを踏まえ、活動と休憩のバランスを保つようにしています。		
A-1-（2）-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		a
<コメント> 1歳児の保育環境は、両側から遊べる棚を置くほか、絵本を読めるスペースを作ったり、気に入ったおもちゃで遊んだり、棚・敷き物で空間を仕切ったりするなど、安全面にも配慮しながら活動できるようにしています。2、3歳児もサーキット遊びやリズムあそびなどで楽しんでいます。雨の日に外に出られないときは、4、5歳児の仕切りを取って、広いスペースで遊ぶこともあります。子どもたちは集団生活の中で、職員や周りの子どもたちから認められる体験を重ねながら、自信をもって活動できるようにしています。鬼ごっこや体操、ゲームなど、子どもが楽しんで取り組めるような内容を指導計画に取り入れ、体を動かす体験ができるような環境を作っています。どんぐり拾いや草花、砂遊びのほか、運動会の思い出を自由に描いたり、折ったとんぼを画用紙に貼ったり、図鑑を使って秋の絵を描いたりして、各年齢の製作物は壁面に飾っています。職員は子ども同士がお互いにかかわりを深められたり、楽しさをともに味わったりできるような活動を取り入れています。		

<p>A－１－（２）－⑤</p> <p>【Ａ６】 乳児保育（０歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
＜コメント＞	
<p>０歳児は育ちの差が大きく、感染症にかかりやすい時期でもあるので、できるだけ保育室で過ごし、安心できる環境の中で好きなことをしながら過ごせるようにしています。職員は子ども一人ひとりの成育歴を把握したうえで、看護師や栄養士と連携しながら、子どもが快適に過ごせるように配慮しています。子どもの喃語にはゆっくり、笑顔を見せながら、応答的な触れ合いや話しかけを行うようにしています。また、見る、触れる、探索するなど、身近な環境に興味をもてるような生活と遊びができるようにしています。音が鳴るもの、布、ブロック等の玩具は、形、色、大きさ等を子どもの育ちに応じて選定しています。ゆったりした雰囲気の中で、子どもたちが一人ひとりのペースで過ごせるように家具を配置したり、玩具を置いたりして環境を整えています。降園時には保護者にその日の活動や子どもの様子を伝えるとともに、連絡帳、面談の中では子育ての相談に乗るなど、ていねいな対応を心がけながら、家庭と連携しています。保育室壁面の掲示物をきっかけに会話が弾むこともあります。</p>	
<p>A－１－（２）－⑥</p> <p>【Ａ７】 ３歳未満児（１・２歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
＜コメント＞	
<p>３歳児未満の保育では、個別指導計画を基に、子ども一人ひとりが集中して遊びこめるようなスペースを作り、玩具をそろえています。１歳児は型はめパズル、手作りのマグネットリング、ブロック、おままごとなどを好み、２歳児はピースパズル、ブロック、おままごと、チェリング等を好みますが、電車の線路をつなげて電車を走らせたり、絵本を読んだりすることが好きな子どももいます。職員は子どもが見る、聞く、触るなどの経験が十分できるように保育計画を作成しています。職員との人間関係だけでなく、友だちとの関係への認識が強くなってくるので、子どもたちが楽しく遊べるように、真ん中に入っていっしょにゲームをしながら、かかわり方を教えていきます。好きな友だちと遊べず、気持ちが落ち着かない時には、ほかに興味をもてるような遊びに誘導します。２歳児以上の子どもは、徐々にメンバーを固定したグループを作るようになり、ままごとや鬼ごっこなどで友だちと遊んでいます。職員は子どもたちの育ちに合わせて、ルールのある遊びを取り入れていくようにしています。</p>	
<p>A－１－（２）－⑦</p> <p>【Ａ８】 ３歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
＜コメント＞	
<p>園では法人独自の保育プログラムを通して、健康・コミュニケーション、言葉、表現について独自の取り組みを行っています。カテゴリーごとにテーマがあるので、それぞれの活動を組み合わせる形をとっています。３歳児は、遊びの中に入れてもらえない子どもに寄り添って、集団遊びに入っていけるようにします。職員は子ども同士の人間関係を把握したうえで、子ども一人ひとりに合わせた配慮が必要だと考えています。４歳児には、夏祭りの行事等を子どもたちが中心になって計画し、行事を実施できたという達成感が得られるようにしています。魚釣りや盆踊りなどのイベントは各クラスで取り組み、０歳児を除いては全年齢が楽しめるようにしています。５歳児は法人独自の入学準備プログラムを１１月から始めています。職員は子ども同士のかわりを見守りながら、一人遊びも大切にするとともに、子どもの状況をにに合わせて対応していくようにしています。</p>	
<p>A－１－（２）－⑧</p> <p>【Ａ９】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
＜コメント＞	
<p>配慮が必要な子どもの心身の状況については、保護者と定期的に情報交換し、保育所での生活に配慮できるようにしています。保護者が子どもの体や心の状態を心配していたり、指摘された子どもの特性に戸惑ったりしている時は、気持ちを受け止めながら相談に乗ります。よこはま港南地域療育センター等と連携して情報を受け取り、様子を見ながら保育に配慮しています。職員は、子どもがクラスの子どもたちといっしょに活動しながら、生活の流れを身につけていけるように介助します。保育の記録は、クラスを担当する複数の職員が記入し、子どもの成長については職員会議で共有しています。障がいに関する研修には、担当クラスの担任を中心に参加しています。クラスの計画は配置人数や子どもの様子を見ながら調整しています。療育センターや自治体の心理士から相談や助言を受けて、障がいのある子どもの家庭との連携に力を入れています。</p>	
<p>A－１－（２）－⑨</p> <p>【Ａ１０】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
＜コメント＞	
<p>現在、長時間保育の利用者は、１０名以下となっています。重要事項説明書の同意書では、保育時間が長い子どもや、保護者の急な仕事で発生した延長保育の対応として、補食及び夕食を提供することになっています。延長保育を利用する保護者には、朝、子どもが登園した際の視診の結果、その日の活動、ほかの申し送り事項を記録した「健康チェック及び生活記録」をもとに、夕方の担当職員が保護者や日常の様子を伝えるようにしています。保護者からの要望があれば、当日でも可能な限り延長保育を受け付けます。活動内容は、子どもの発達やその日の状態に合わせて決めています。実施した保育は、子どもの降園時間、クラス、名前、サービスを受けたかどうかのチェック、補食、夕食、降園時間を長時間保育日誌に記載しています。備考には主な活動、子どもの様子、評価と反省を書いています。職員は、子どものリクエストを聞いて、個々のスペースで机上遊びに取り組んだり、絵本の読み聞かせをしたりして、敷物を敷いた空間で過ごしています。</p>	
<p>A－１－（２）－⑩</p> <p>【Ａ１１】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
＜コメント＞	
<p>保育所児童保育要録は年長クラスの担任が作成し、施設長が承認して、就学先に送付しています。園では５歳児のために、独自の教材を使って小学校生活に必要なマナーやルール、学習の基礎を学ぶ法人独自の入学準備プログラムを取り入れています。５歳児の保護者会や面談では、小学校以降の子どもの生活について説明する機会を設けています。保護者からの質問や相談にもクラス担当職員が対応して、不安が残らないようにしています。就学先の小学校教員とクラス担当職員が、電話で意見交換するとともに、情報共有しています。以前は小学校の担当教師が来園することもありましたが、コロナ禍の影響のため、現在は中止しています。子どもたちが小学校に進学し、校長との面談の後、問い合わせが来ることもあります。現在は小学校訪問できないため、子どもたちは小学校紹介の動画を見るほか、小学校の体育館を借りて運動会の練習で何回か訪問する際に、小学校の雰囲気を味わっています。</p>	

A-1-(3) 健康管理		第三者評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。		a
＜コメント＞ 法人が作成している「施設運営の手引き②」に、子どもたちの健康管理や、日常保育で注意しなければならないことを記載しています。保健年間計画は前年度の計画や、入園している子どもの状況を把握したうえで、看護師とクラス担当職員が作成しています。看護師は0歳児クラスを中心に各クラスを巡回し、子どもたちの様子を観察します。毎月発行している保健だより等で、保育の方針や取り組みを伝えています。子どもの体調悪化やけがが発生した場合には、すぐに保護者に連絡して様子を伝えています。対応後の子どもの様子についても確認し、職員間で共有しています。ケーススタディとして共有が必要だと感じた内容については、職員会議で共有します。また、関連する事例を看護師が職員会議で伝えることもあります。港南区からの感染情報等のお知らせは、閲覧書類ファイルに書類を入れて置き、職員全員で閲覧しています。園内で感染者が出たときには、玄関の乳児・幼児の掲示板で感染状況を知らせています。		
【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		a
＜コメント＞ 身体計測は毎月、歯科健診、全園児検診は年2回、尿検査、視聴覚検査は年1回実施しています。健診前の連絡は保育業務支援システム内のアプリで行い、質問があるときは、保護者から質問を募っています。質問内容は看護師がチェックし、保護者に回答しています。まとめた質問と回答は、職員会議で看護師から報告され、職員が情報共有して園での活動に生かされています。担当職員は保育中に子どもの健康状態や、気になることがあった場合は、看護師に相談します。保護者に通知する必要があると判断した場合には、園長、主任、看護師、担当職員が話し合いをしたうえで、手紙を出して通院依頼をします。通院先については、保護者からの相談があれば対応します。現在に至るまで、検診結果について連携し、医療に結びつけるようなケースは発生していませんが、嘱託医のアドバイスを受けて、保護者と子どもの状況について話し合うことがあります。定期健診の結果と歯科検診の結果は、当日または翌日に保護者に通知し、情報共有しています。		
【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		a
＜コメント＞ 保育所におけるアレルギー対応マニュアル「施設運営の手引き①」を基に、アレルギー疾患のある子どもへの対応を行っています。園では、保護者への情報提供や理解を得るための取り組みとして、入園説明会や保護者会でアレルギー対応について説明を行っています。入園前の保護者との面談で、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「生活管理指導表」のほか、医師の診断書を確認し、入園後の食事や生活について必要な配慮を行うようにしています。その後、クラスや職員会議で、職員全員がアレルギー疾患情報やその子どもの健康状態を把握し、看護師を中心に対処するとともに、関係書類は看護師が管理します。保護者とは、生活管理指導表が変更になった時や、病院に行った時など、節目節目で園長、栄養士、看護師が面談して面談報告書に記載し、情報共有しています。日々の送迎、遠足、園内行事など、子どもが口に食物を入れるような機会がある時には、保護者に事前連絡をして持ち込みをしないようにしてもらっています。アレルギー研修は、年度初めと年度終わり、または新しい情報が出た際に、看護師と栄養士が行っています。		
A-1-(4) 食事		第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
＜コメント＞ 年齢ごとの食育計画書を基に、子どもたちが育てた収穫物（なす、えだまめ、きゅうり、とうもろこし）などを調理し、食材への興味や食べる意欲をはぐくんでいます。旬の食材や季節感のある食材（鮭などの魚類、きのこ類、夏野菜、冬野菜）をメニューに使用し、それらを使った食育活動も行っています。保護者に食事を提供して、子どもたちの食事の状況を知ってもらう試食会は、コロナ禍の影響で令和4年度は行っていません。保護者とは、入園時の面談の際に給食への取り組みについて伝え、入園後の保育の中で子どもたちの様子を伝えることで、連携を図っています。食事に関する相談が保護者からあった場合には、日々の送迎時や、保育業務支援システムのアプリで質問に答えています。栄養士は担当職員からの伝達を受けて、保護者と直接話をしたり、担当職員を通して保護者に伝えてもらったりしています。職員はそれぞれの子どもの育ちや食欲に応じて、給与量を調整しています。また、子どもたちの年齢に合わせた食事の介助、声掛けをしています。子どもが苦手な食材は、無理強いせずに、少しずつ味に慣れるように調理法や切り方を工夫しています。		
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		a
＜コメント＞ 栄養士は子どもたちの要望や嗜好に合わせたメニューを作成するように努めています。メニューはサイクルにして実施し、栄養士は子どもたちの残食の内容を確認します。1回目のメニューで残食が想定以上だった場合には、給食会議で改善点を職員と検討し、次の調理の際に味付けを変えたり、小さく切ったり、短冊や千切りにしたりするなど、工夫しています。主菜と副菜の味付けは基本的に薄味にしていますが、おかずの味にメリハリをつけ、食べ終わった時に満足感を感じるようにしています。また、季節感を考慮し、暦や行事に合わせて食事を提供しています。七夕や毎月のお誕生日会でのケーキ、絵本の中で出てくる食事を再現した絵本給食、子どもたちの要望に応えるリクエスト給食のほか、「かながわの特産・名産料理」も提供しています。シュウマイ、相模原のかんこ焼き、伊勢原の豆腐を使ったメニュー、厚木市豚肉のバーガー等のメニューも実施し、子どもたちが食事を楽しめるように工夫をしています。栄養士は2、3日に1回程度、子どもたちの食事の様子を見に行くようにしています。特に、年齢によってカトラリーがどの程度使えているかどうかを確認しています。		

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<div> <div>【A17】</div> <div>A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</div> </div>	a
<div> <div><コメント></div> <div>職員は日々の送迎の際に保護者に子どもの様子を伝えるほか、相談や面談等の希望があった場合には、随時時間を取り対応しています。今年度から利用し始めた保育業務支援システムの連絡機能アプリを使うことで、保護者との連絡をより取りやすくなりました。保育の意図や保育内容については、園だよりの中で、養護、教育の二つのテーマを設け、各クラスの目標や先月の様子を知らせています。保護者会と面談は通常、年2回行う予定にしています。今年度は1度目を5月から6月に実施しましたが、2回目はコロナ禍の影響に配慮しながら、1月から2月に実施する予定です。現在は感染予防対策として、保護者の園内への立ち入りは制限しているため、保育参観の開催が難しく、ビデオ配信等で子どもたちの様子を伝える工夫をしています。</div> </div>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<div> <div>【A18】</div> <div>A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</div> </div>	a
<div> <div><コメント></div> <div>「施設運営の手引き②」に基づいて、保護者とのコミュニケーションを取り、連絡帳、日々の送迎を通して保護者との信頼関係を築けるように努めています。法人では苦情解決に関して専用メールボックスを設定し、保護者の要望や質問を受け付けることができますようにしています。現在はコロナ禍により、園では保護者との触れ合いが減る傾向がありますが、保護者から相談しやすい体制を取れるように努めているため、直接口頭で伝える保護者もいます。相談内容によっては、職員が記録を取り、個人面談記録に記録します。相談内容に即答できない場合は、先輩職員や主任、園長に相談して対応します。今年度はコロナ禍により、保護者会も書面での伝達となりましたが、例年は各クラスから1名ずつ選出されている運営委員会を年3回実施し、保育方針や行事の方向性を伝えています。保護者に声をかけるときは就業状況を考慮し、運営委員会の開催時には、必要に応じて子どもに補食を提供して、保護者の負担が減らせるように努めています。</div> </div>	
<div> <div>【A19】</div> <div>A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</div> </div>	b
<div> <div><コメント></div> <div>「施設運営の手引き」「危機管理マニュアル」を基に、虐待等への取り組みを行っています。職員は子どもが登園した際、子どもの体の様子を視診し、気になる点があった場合にはクラスの職員で情報共有し、主任に報告します。園長は、虐待など、子どもの権利侵害の可能性のある時には、中部児童相談所や港南区の子ども家庭支援課を通して、保健師と連携します。また、子どもと向き合うことや、就業環境に不安を感じているような保護者には、見守りながら相談しやすいような声かけをするように努めています。職員は、自分が現在向き合っている状況が虐待にあたるかどうかを考えられるように、「よりよい保育のためのチェックリスト」（横浜市版）を使って、確認できるようにしています。また、定期的に開催している運営委員会では、虐待への対応を検討する必要もあると考えています。現在は、外部・園内研修ともに十分な実施状況とは言えないので、今後は虐待に関する研修や港南区の子ども家庭支援課からの情報の共有も行い、保護者に伝えることが必要だと考えています。</div> </div>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<div> <div>【A20】</div> <div>A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</div> </div>	a
<div> <div><コメント></div> <div>職員はそれぞれの職務と経歴を基に、自己評価内容が記載されている個人能力向上シートに中期、期末の評価を4段階から選んで書き込みます。評価表は表裏で構成されており、表面には個人の目標に対する課題、課題を解決するためにすべきことを書いたうえで、毎月の目標と振り返りのほか、当年度に受けた研修内容と振り返りについて記入します。半年後、期末の振り返りには、2名の主任と園長が確認し、コメントを記入したうえで捺印しています。職員は自己評価を行うことによって、自分が1年間行った保育を振り返り、次年度の目標や今後自分が行う保育の改善点について検討します。職員は園長のコメントから、自分の知らない文言や概念を知ること、保育に関する見識を広げていきます。職員はクラス担任同士の打ち合わせや、今年度から導入し始めたドキュメンテーションを活用して、自分のクラスの保育や、保護者とのかかわりについて話し合います。個人の研修以外にもOJT研修やドキュメンテーション研修を通して、各職員が自分の保育を振り返るきっかけとなっています。</div> </div>	